

# KDKニュース



## KDK三つの原則

1. 開拓伝道であること
2. 教会を建てあげること
3. 聖書信仰に立つ、教団、教派との協力

## 国内開拓伝道会

発行人 泉田 昭  
〒352-0011  
埼玉県新座市野火止4の8の28  
電話 048-202-1500  
FAX 048-202-1501  
振替 00140-6-57493  
No.121 2018年5月

## 「主の召しに従い続けるために」

KDK委員 岸尾 光



「さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」  
(ルカの福音書二四章一九節)

開拓伝道の難しさの一つに、成果が見えにくい状態が続く中、自からの伝道牧会の正誤も分からぬまま働きを継続して行かねばならないことがあると思います。十七年前に始めたゼロ開拓から今まで導かれて来た私にとり、助けになったことを幾つか分かち合わせて頂きます。

### 書籍と研修による学び

牧会者の神学は教会形成に大きく左右すると言われます。働きが行き詰まる中で、私は伝道牧会に関する神学的な書物から学ぶようになりました。各著者は、私一人では採り切れない四つの神学分野の膨大なリソースの中から、自らの研究と牧会経験に基づき、牧師の神学と実践について教示してくれました。

また所属する団体が提供する牧師研修プログラムに参加しました。その中でメンターたちから学び、客観的に自らと教会を見つめ直し、地域での宣教への道も開かれたのです。これら外からのリソースによって、不要な罪責観や自己満足から守られ、伝道牧会に向かう新鮮な動機が私の内側の深い所から刷新され、召しに従い歩み続けるべき道を行くに必要な確信を保つべく助けを得ることができました。

### 礼拝の視点の見直し

前述した研修プログラムの講師より「未信者が来た時に迎えるにふさわしい礼拝をまず整えよ」とのアドバイスを受けました。そこで、それまで試みた賛美や説教を未信者向けにするという小手先の対応

ではなく、礼拝論入門から学び直し、現代の礼拝スタイルを検証し、礼拝プログラムを神学的基盤を据えた上で練り直したのです。

そして礼拝者たちがプログラムの意義を知り、聖霊によるキリストの臨在を信じ参与することを、また説教者としてはこの世にとって「異質な言葉」としてのみことばをそのまま語ることを目指しました。すると人数の多少や新来者・求道者の有無に関わらず、また大教会のような壮麗さがなくとも、核となる人々が新鮮な喜びと確信を持って礼拝を捧げられるようになったと思います。こうして新来会者が来ても気後れせず、落ち着いて迎える体制が整いました。

### 日常の営みにおける神の働き

開拓伝道者は地域ボランティア、家事、育児や介護、その他直接伝道以外の様々な仕事に携わらねばならない時もあるでしょう。私の場合は、みことばや神学を学ぶうちに、「日々の営みの只中にイエス様が御力とご支配によって働いておられる」という視点が養われ、その視点で物事を見るようにとの訓練を受けました(ルカ十七・二一)。それによって、教会でも働いておられる摂理の神様への信頼も養われたようです。(さかんに神様は、家事に携わる私を、小さな家族的な教会の牧師として、親目線で教会の人々に接するために備えて下さっているとも信じています。第一テサロニケ二・七十一)

### 聖霊と祈り

当然ながら自らの限界に直面させられることが少なくありません。その中で、聖霊が与えられ、聖霊に働いて頂くべく、祈りのうちに跪き、教会と自らの再生を待ち望み、胎児のように(?)主の憐れみにすがりつつ祈るしかないので、人間的に誇ることが多いと見受けられる神学者による牧師指南書の締めくくりにも書いているのを読むにつれ、少なからず励ましを受けています。

(新座志木バプテスト教会 牧師)